

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	：十分達成できている
B	：おおむね達成できている
C	：やや不十分である
D	：不十分である

学校名	大町町立小中一貫校大町ひじり学園
1 前年度 評価結果の概要	・学力向上については、「大町型授業」について共通理解を図り、授業改善に取り組むことができた。6年生以下での学力の向上を図る必要がある。 ・児童生徒が夢や誇りをもてるよう体験的な行事や地域と連携した学習を行った。今後は「社会や地域に貢献する」児童生徒を育成するため、心の教育の充実を図る必要がある。 ・全職員のボトムアップにより、教職員の負担軽減を行うシステムの構築と職員の意識改革を行った。今後も継続して働き方改革を推進する。
2 学校教育目標	「大磨 智識」 ～知・徳・体を大きく磨き、人格の完成を目指す～ 「夢に向かって絆・全力・挑戦」 ～夢と誇りを持ち、社会をたくましく生き抜く児童生徒の育成～
3 本年度の重点目標	①主体的に学ぼうとする態度を育てる学習指導の工夫と教育DXの推進を図る。 ②児童生徒会活動を中心として、主体性とリーダーの育成を図るとともに、道徳教育を通して豊かな心の育成を図る。 ③部会や主任会におけるボトムアップを通してシステムの改善および意識改革を図り、働き方改革を推進する。

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価					
(1)共通評価項目											主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%以上にする。 ○授業評価アンケートで、肯定的な回答をする児童生徒の割合を80%以上にする。	・共通実践についての共通理解の場の設定と意識化 ・「授業づくりのステップ1・2・3」を活用した授業づくりと授業力向上の推進 ・授業改善リーフレットを活用した授業チェック ・授業評価アンケートの実施 ・校内研究での授業研究会・研修	B	・授業アンケートでの授業の板書や授業の説明、めあての提示に対して肯定的な回答をした児童生徒は90%と高かった。 ・全職員で県学習状況調査の分析を行い、児童・生徒の実態把握と今後の実践について共通理解を図り、学力向上対策評価シートの提案を行った。実践については、今後取り組んでいく。	A	・学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成したと肯定的に回答した職員は86%であった。 ・授業アンケートで「学習内容がよくわかる」に対して肯定的な回答をした児童生徒は88%であった。 ・職員、児童生徒ともに成果指標を達成していたが、さらに学力向上につながる取組みを考えていく必要がある。	A	・授業評価アンケートで、児童生徒の授業が「よく分かる」という回答での88%はすばらしい。	学力向上対策 コーディネーター (金子・森田)	
		○授業の中で学習用パソコンを活用することができたと感じる児童・生徒を90%以上にする。	・学習規律について、共通理解の場の設定と「学習のルール」に準じた指導 ・パソコン活用における実践交流の場の設定 ・研修会の実施 ・eライブラリの活用	B	・学習規律の指導は4月に行ったあとも、職員連絡会で共通理解のもと随時行いながら徹底できるように努めている。 ・転入職員を中心にパソコン利用のミニ研修会を3回実施した。 ・授業で学習用PCを活用できたと回答した先生の割合は70%であったが、中学部の活用率は85%と高かった。 ・週に1回eライブラリの活用を5年生以上で実施できた。	B	・アンケート分析より、前期ブロック85%、中・後期ブロック88%の児童生徒が学習用パソコンを積極的に授業で使ったと回答したことから、おおむね目標達成に近い結果となった。しかし、教職員の活用状況67%から、教職員の活用割合に個人差が見られ、児童生徒との差が生まれたと考える。 ・週に1回eライブラリの活用を継続しながら、持ち帰りで家庭学習に取り組むように促すことで、活用する頻度が若干増えた。 ・中学部では定期テスト前に、家庭でeライブラリを活用するように促した結果、全体の40%程度の生徒が活用していた。	B	・これからの社会ではICT活用能力が重要になってくる。しっかりと活用できるように指導する必要がある。	ICT推進教員 (山田・高田)	
		○家庭学習で、自主的な学習に取り組めると感じる児童・生徒を80%以上にする。	・「家庭学習のすすめ方」の配布による自主的な学習の取り組み方紹介	B	・「家庭学習のすすめ方」の配布や、自主学習の良い取り組みの紹介を通じて、主体的に家庭学習に取り組む児童生徒の増加が見られつつある。	A	・自主学習の良い取り組みの紹介を年に3回行った。 ・自主的に宿題や勉強をしていると回答した児童生徒は84%であった。	A	・授業と同じように家庭学習も大切である。学校では家庭学習の仕方や大切さを指導・支援しながら学力の向上を図ってもらいたい。	学力向上部主任 (山田)	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○命の大切さや相手の立場を考えて思いやることができるようになったと言える児童生徒を80%以上にする。	・生命尊重、思いやり等の道徳授業の実践 ・本物に触れる体験活動の取組 ・平和集会、人権集会の取組	B	・道徳の授業、ふれあい道徳を通して、生命尊重・思いやり等を実践している。 ・平和学習や米作りなど各学年の実態に応じた体験活動をしている。 ・平和集会を行い、戦争の悲惨さ、平和の尊さについて考えることができた。	A	・友達の良い考えや考え方を行動できていると回答した児童生徒は90％～セーセント以上で目標達成できた。 ・高齢者体験や花植え、居住地交流等の各学年の実態に応じた体験活動をしている。 ・人権集会を行い、障害理解や人権の大切さについて考えることができた。	A	・道徳教育や人権・同和教育、教育活動全体を通して、児童生徒の思いやりの心をはぐくんでもらっている。今後も継続していただきたい。	道徳教育推進教員 (里・井崎) 人権・同和教育担当 (百崎・中井・向井)	
		●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめの早期発見、早期対応に努める」と回答する教職員を100%とする。	・Q-Uの実施、心のアンケート(毎月) ・教育相談部会(月末火曜日6時間目) ・小中合同生徒指導・教育相談連絡会(年2回) ・児童生徒情報交換連絡会(隔週)	A	・Q-U、心のアンケートを実施し、指導に活用している。 ・教育相談部会を定期的に行い、支援に活用している。 ・小中合同生徒指導・教育相談連絡会を実施し、組織的に活動に役立てている。 ・いじめの早期発見、早期対応にすべての教員が努めていると回答した。	B	・Q-U、心のアンケートを実施し、指導に活用した。 ・教育相談部会を定期的に行い、支援に活用した。 ・小中合同生徒指導・教育相談連絡会を実施し、組織的に活動に役立てた。 ・「いじめの早期発見、早期対応に努める」に「そう思わない」と回答した教職員がいた。非常に残念な結果である。全職員が組織的に取り組む研修が必要だと考える。	B	・心のアンケートは必要な取組である。表面に出ていない案件、本人たちが気づいていない案件については大人の導きが必要である。	生徒指導主事 各学年生徒指導 (味志・渡辺)
		●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上にする。	・「出番・役割・承認」の開発的生徒指導の実践 ・夢や誇りをもつことができるような体験的な行事や地域と連携した学習の実施	A	・縦割り活動として、遠足や掃除、会食など行い、その中で役割を任せることで児童生徒の出番を増やすことができた。 ・浮立や稲刈りでは地域の方を講師として招き、また職場体験では町内の事業所と協力することで、地域と連携した学習を実施することができた。	A	・「認められている」と回答した児童生徒は、90.5%であった。 ・「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒は、82%であった。中・後期ブロックの児童生徒は77%で、年齢を重ねるごとに、夢や目標を持っている児童生徒が減少している。 ・自分の良さや将来の夢が結びついていない児童生徒が多いのが課題であり、進路学習の取り組み方を見直す必要があると考える。	A	・社会に出たら人間力が必要である。そのためコミュニケーション能力が必要となる。それを意識させる活動も必要なのではないか。 ・児童生徒は先生からは認められていると認識している。	キャリア部主任 (川崎・岩永)
●健康・体づくり	○「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○「健康に良い食事をしている」と思う児童生徒を90%以上にする。	・学級活動等における食育指導の推進 ・朝食の意義や食事の大切さについての児童生徒の啓発及び家庭への協力の呼びかけ ・全学級における学級活動での栄養教諭を中心とした食育指導の実践	B	・小中共に委員会活動で朝食の大切さやバランスのとれた食事について啓発するポスターを作成し、児童生徒に呼びかけを行った。 ・給食時間に学級で食育指導を毎日行っている。 ・保護者への啓発が課題。	A	・「健康のために体に良い食事ができている」という質問に対し、肯定的に回答した児童生徒は91%であった。 ・安全な食の提供や望ましい食習慣に重点化した具体的な目標を設定し、給食担当と連携し、衛生的な配膳指導や献立を活用した食育指導等を行うことで、望ましい食習慣の定着に努めた。	A	・学習効果を高めるために、朝食を摂ることは大切である。本校の児童生徒はしっかりと朝食を摂っているということがわかる。	学校栄養職員 食育推進担当者 (原・小野・宮副)	
		○大町型体育の推進	○体育、保健体育の学習や外遊び、運動が楽しいと思う児童生徒を80%以上にする。	・体育、保健体育の学習指導の工夫と職員研修による指導力向上 ・運動環境の充実と外遊びや運動の奨励 ・体育的行事(体育大会、ひじり杯、クラスマッチ、ひじりマラソン、スポーツチャレンジ)の実施	A	・大町型体育実践のための外部講師招致した授業実践をしている。また、定期的な体育主任研修会も実施している。 ・体育用品の充実化、学習環境の整備を継続して実施している。 ・「体育育、保健体育の学習や外遊び、運動が楽しい」と思う児童生徒が91%であった。今後も継続した取り組みを維持していきたい。	A	・大町型体育実践のための外部講師招致した授業実践をしている。また、定期的な体育主任研修会も実施している。 ・体育用品の充実化、学習環境の整備を継続して実施している。 ・「体育育、保健体育の学習や外遊び、運動が楽しい」と思う児童生徒が91%であった。今後も継続した取り組みを維持していきたい。	A	・保健体育の学習や外遊びなどの運動が楽しいと答えた児童生徒が90%以上というのは、日ごろから、授業で意欲・関心を高める授業を行っている成果であると思う。	体育主任 (平山・渡辺)
		○防災教育・安全教育の推進	○学校内外での安全意識を高める。 ○災害時において取るべき行動について正しく理解している児童生徒の割合を90%以上にする。	・登校指導・各種訓練・危険箇所の点検見回りの実施とその結果を活かした児童生徒への指導 ・防災についての講話や体験を通した主体的に行動することや支援者としての態度の育成	A	・1.2年生の交通安全教室の実施、3～6年生の自転車安全教室、7～9年生の交通安全教室を実施するとともに、交通マナーについての指導を随時行っている。 ・6.7年生で避難所設置体験、全校で大雨時引き渡し訓練、大雨時集団下校を実施した。 ・不審者対応避難訓練を白石警察署と連携して実施した。	A	・「健康のために体に良い食事ができている」という質問に対し、肯定的に回答した児童生徒は91%であった。 ・安全な食の提供や望ましい食習慣に重点化した具体的な目標を設定し、給食担当と連携し、衛生的な配膳指導や献立を活用した食育指導等を行うことで、望ましい食習慣の定着に努めた。	A	・学習効果を高めるために、朝食を摂ることは大切である。本校の児童生徒はしっかりと朝食を摂っているということがわかる。	健康・安全部 (平山・吉田) (向井・前田)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●月の時間外勤務時間を昨年度比減10%以上にする。	・毎週水曜日午後は職員裁量時間として運用 ・定時退勤日(水・金)の推進 ・(長期休業中の学校閉庁日の設定) ・部活動休養日の設定 ・教科担任制の推進 ・勤務時間外留守番電話の設定	C	・(小)9月までの時間外勤務時間の平均では4%程度増加した。その要因として個別の支援を必要とする児童の対応に全職員が追われ、通常業務を時間外に行わなければならないとなったからであった。 ・(中)9月までの時間外勤務時間の前年度比は81%増加した。個人差が大きく、業務の見通しや段取りの仕方など、個別の指導が必要である。	A	・(小)1月までの時間外勤務時間については23.8時間、昨年度と比較して約6%の増加であった。職員の事務時間を確保してきたが、声掛けをすることで職員の意識を高めていく必要がある。 ・(中)1月までの時間外勤務時間の平均を昨年度と比較すると20%削減することができた。職員全体で声掛けや業務のサポートを行うことで業務改善の効果が見られた。	A	・時間外勤務時間の削減により、持ち帰りの仕事がか心配である。 ・前期に行事が集中していることで残業が多いならば、課題は毎年検証をする必要があると思う。 ・時間外勤務時間について、個別の数値化をお願いしたい。	管理職 (千綿・陣内)	
		○「将来の夢や目標」をもち、目標を意識して活動ができていると感じる児童生徒の割合を80%以上にする。	・地域と連携した教育課程を編成し、地域の方から多様な生き方を学ぶ学習活動を実践する。 ・教育活動全体を通して計画的にキャリアパスポートを活用することで、系統的に進路や生き方について考える機会を設定する。	A	・職場体験で地域の方から生き方を学ぶ学習を実施することができた。また、「地域との交流スケジュール」および「さまら〜」に提示し、年間の活動の見通しをもつことができた。 ・行事や節目ごとにキャリアパスポートを記入し、生き方について考えさせる機会を作った。	B	・「将来の夢や目標を意識して活動ができている」と感じる児童生徒は77%で、保護者は62%とさらに低い。教職員は、95%である。 ・様々な行事等で活動を行っているが、将来の目標を意識している児童生徒が少ないことが課題である。	B	・目標・目的の違いはどうとらえられているか。 ・将来の夢や目標を意識して活動させるためには保護者との目標や情報共有が必要ではないか。 ・学校からの発信をさらに行うことが重要である。	キャリア部主任 (川崎・岩永)	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○キャリア教育の推進	◎生徒が夢や誇りをもち、社会をたくましく生き抜くための教育活動	◎「将来の夢や目標」をもち、目標を意識して活動ができていると感じる児童生徒の割合を80%以上にする。	・地域と連携した教育課程を編成し、地域の方から多様な生き方を学ぶ学習活動を実践する。 ・教育活動全体を通して計画的にキャリアパスポートを活用することで、系統的に進路や生き方について考える機会を設定する。	A	・職場体験で地域の方から生き方を学ぶ学習を実施することができた。また、「地域との交流スケジュール」および「さまら〜」に提示し、年間の活動の見通しをもつことができた。 ・行事や節目ごとにキャリアパスポートを記入し、生き方について考えさせる機会を作った。	B	・「将来の夢や目標を意識して活動ができている」と感じる児童生徒は77%で、保護者は62%とさらに低い。教職員は、95%である。 ・様々な行事等で活動を行っているが、将来の目標を意識している児童生徒が少ないことが課題である。	B	・目標・目的の違いはどうとらえられているか。 ・将来の夢や目標を意識して活動させるためには保護者との目標や情報共有が必要ではないか。 ・学校からの発信をさらに行うことが重要である。	キャリア部主任 (川崎・岩永)	

5 総合評価・ 次年度への展望	・学習指導の工夫により、主体的に学ぼうとする態度の育成を図ることができた。一方で授業におけるICT活用には個人差が見られた。今後、研修等を実施し、スキルの向上を図るとともに、効果的な指導方法を研究し、共通理解・共通実践を図りたい。 ・校内研究での特別活動の研修や計画的な周知と活動で、児童生徒会組織への円滑な移行ができた。今後は、児童生徒会組織を中心としてリーダーの育成を図るとともに、主体性をもって活動できる児童生徒の育成を教育活動全体を通して推進する必要がある。 ・部会や主任会を定時開催し、業務のボトムアップを実現することで、計画的で効率的な学校運営と、時間外勤務の削減が可能となった。今後は働きがいのある職場を目指して、well-beingの意識を高めながら働き方改革を推進する。
--------------------	--